

# I 看護専修学校(3年課程) の現状と問題点

日本看護協会 調査研究室

藤田 和夫

## はじめに

看護専修学校(3年課程)は、学校課程別にみると、看護婦(士)養成機関としては最も養成定員数が多く、現在日本の看護婦養成を支える土台的存在である。しかし看護婦(士)養成に関して、これまで注目されてきた点は、看護系大学の1県1大学構想や、准看護婦(士)養成制度廃止運動などである。

そのため看護専修学校のなかで、大学病院附属の看護専修学校が短大へ移行するなどの変化はあったが、大きく注目されることはなかった。これは、看護専修学校が、レギュラーコースなどよばれてきたため、准看護婦(士)養成所よりはよいという風潮があったことも影響しているであろう。

日本看護協会では、約20年前に3年課程の看護学校について一連の調査・研究(引用・参考文献参照)を行い、さまざまな問題点を指摘している。その後、約20年を経た現在、それらはどの程度改善されたであろうか。このことを明らかにするために、既存の調査結果との比較を行う。さらに現在の看護専修学校の特徴を、他の課程との比較で明らかにして、看護専修学校の今後の課題についても言及していきたい。

## 1. 学校教育の形態と教職員の変化

### 1) 設置主体別学校数・1学年定員・増加率

1970年と92年の学校数、学生定員増加数を設置主体別にみると、学校数では、「市町村」「済生会」「厚生連」「その他」立の学校が増えている。学生数では、学校数と同様、「市町村」「済生会」「厚生連」「その他」立の学生数が増えている。全体では、学校数が2.2倍、学生数が3.5倍に増えている(表I-1)。

「国(その他)」とは、文部省管轄の学校で、国立大学病院附属の学校である。国立大学病院附属看護学校の場合、看護専修学校から短大に移行したため、学校数・学生数が減っている。

### 2) 管理職の位置づけと職種

看護専修学校における管理職(学校長)が兼任している割合は、91年調査のほうが74年より若干少なくなっているものの86.7%を占めている。管理職の職種についても、「医師」であるという実態に変化はない(表I-2)。

管理職は、院長が兼任するということが規則あるいは慣例となっているため、医師が圧倒的に多い。ちなみに看護職の学校長は、91年度調査の結果、3.7%であった。

表 I-1 設置主体別学校数・学生数増加率

	学 校 数			学 生 数 <sup>3)</sup>		
	1970年 <sup>1)</sup>	1992年 <sup>2)</sup>	増加率	1970年 <sup>1)</sup>	1992年 <sup>2)</sup>	増加率
国(厚生省)	43	87	2.0倍	4129	12660	3.1倍
国(その他)	37	20	0.5	3877	2375	0.6
都道府県	32	79	2.5	3440	12977	3.8
市町村	15	60	4.0	1018	7115	7.0
日赤	33	36	1.4	2672	3840	1.4
済生会	1	4	4.0	85	570	6.7
厚生連	3	11	3.7	187	1470	7.9
その他*	28	129	4.6	2215	18358	8.3
合計	192	426	2.2	17623	61656	3.5

注) \*「その他」の学校の設置主体は、「医療法人」「財団法人」「学校法人」「社会福祉法人」「医師会」「会社」「宗教法人」などである。

表 I-2 管理職の位置づけと職種

	1974年 <sup>4)</sup>	1991年 <sup>5)</sup>
(管理職の位置づけ) 兼任	90.7%	86.7%
(職種) 医師	90.7	90.6

表 I-3 1校あたり平均専任教員数

1970年 <sup>1)</sup>	6.14人
1991年 <sup>4)</sup>	7.0

### 3) 教職員数

専任教員は、70年から91年の間に1校あたり約1名増員となっている(表I-3)。

事務職員数についてみても、91年は74年にくらべて増えている(表I-4)。しかし教員と同様、学生の定員数も増加しているため、事務負担も増えていることから、実質的に教員への事務負担が減ったとはいえない。

### 4) 教員1人あたり受け持ち学生数

教員1人あたりの受け持ち学生数は1.4人しか減っておらず、教員の負担はほとんど変わっていない(表I-5)。設置主体別に経年変化をみる

表 I-4 事務職員数

	1974年 <sup>5)</sup>	1991年 <sup>4)</sup>
い ない	23.9%	15.3%
1 人	42.6	33.3
2 人以上	33.5	50.7
無 回答	0	1.0
平 均	—	2.0人

注) 74年資料は平均値が算出されていない。

表 I-5 教員1人あたり受け持ち学生数

1970年 <sup>1)</sup>	21.1人
1991年 <sup>4)</sup>	19.7

- 1) 3年課程看護学校養成所及び専任教員実態調査(中間報告), 日本看護協会, 1970.
- 2) 厚生省健康政策局看護課: 看護関係統計資料集, 日本看護協会出版会, 1992.
- 3) 学生数は, (看)(保)(助)学校・養成所名簿, 1992より.
- 4) 岩内亮一, 陣内靖彦: 看護学校の組織と運営(1)——445校の実態調査から, 看護教育, 16(5), 1975.
- 5) 1991年看護教育調査: 日本看護協会調査研究報告No.38, 日本看護協会, 1993.

と、「国（厚生省）」は、教員1人あたりの受け持ち学生数が70年から91年の約20年の間に減るどころか平均1人増えた。「国（その他）」では1.7人、「その他」で1.5人増えた。一方、「市町村」では平均1人、「日赤」では平均5人減少し、改善が進んだ（表I-6）。

### 5) 教員の年齢および経験年数

教員の年齢は、70年、91年調査ともに、30歳から34歳までの割合が最も高いが、70年は20歳代の教員が3割であった。一方、91年では20歳代は1割弱である。年齢分布からみて91年のほうが年齢が上がっていることが推測される（図I-1）。

91年の教員の平均経験年数は7.4年である。現在の学校での教員歴は5.7年である。

### 6) 学校教育の形態について教職員の意見

学校教育の問題点について、当資料をもとに数人の教務主任よりヒアリングを行った。その結果は次のとおり。

学校の管理職について、74年の調査結果のコメントでは、「管理職とはいっても『名目上の管理職』であり、本務は病院の医師であるため、学校の運営には関心がない」という指摘があった。一方で「学校長が医師で名目上の管理職である場合でも、学校運営に干渉さえしてこなければ、教員はやりやすい」という意見もある。しかしこれは、学校によって状況はさまざまであろう。

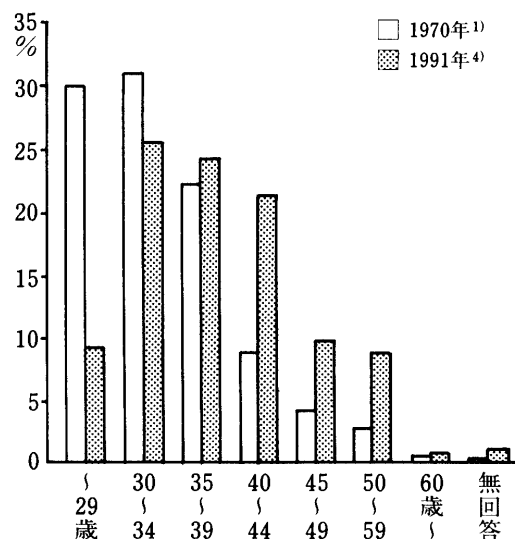
事務職員数が増えても教員の負担が大きいといわれている理由の1つとして、「事務職員ができる仕事でも、教員は事務職員に仕事をまかせず、自分で抱え込んで処理しようとするためである」という意見もある。

91年の教員1人あたりの受け持ち学生数は、国立が最も多い。「国立がこのような状況では、他の設置主体の学校の模範とはなりがたい」という意見があった。

91年のほうが、若い教員が減ったということについて、豊富な臨床経験をもったうえで教員になっており、20年前よりもよくなったと思われる。

表I-6 設置主体別・教員1人あたり受け持ち学生数  
(学生数/専任教員数)

設置主体別	1970年 <sup>1)</sup>	1991年 <sup>2)</sup>
国（厚生省）	30.2人	31.2人
国（その他）	25.7	27.4
都道府県	19.7	17.8
市町村	15.8	14.8
日赤	18.2	13.2
済生会	21.3	—
厚生連	18.5	—
社会保険団体	16.5	—
済生会・厚生連など	—	16.0
健保連・国保組合など	—	15.3
その他	15.6	17.1



図I-1 教員の年齢

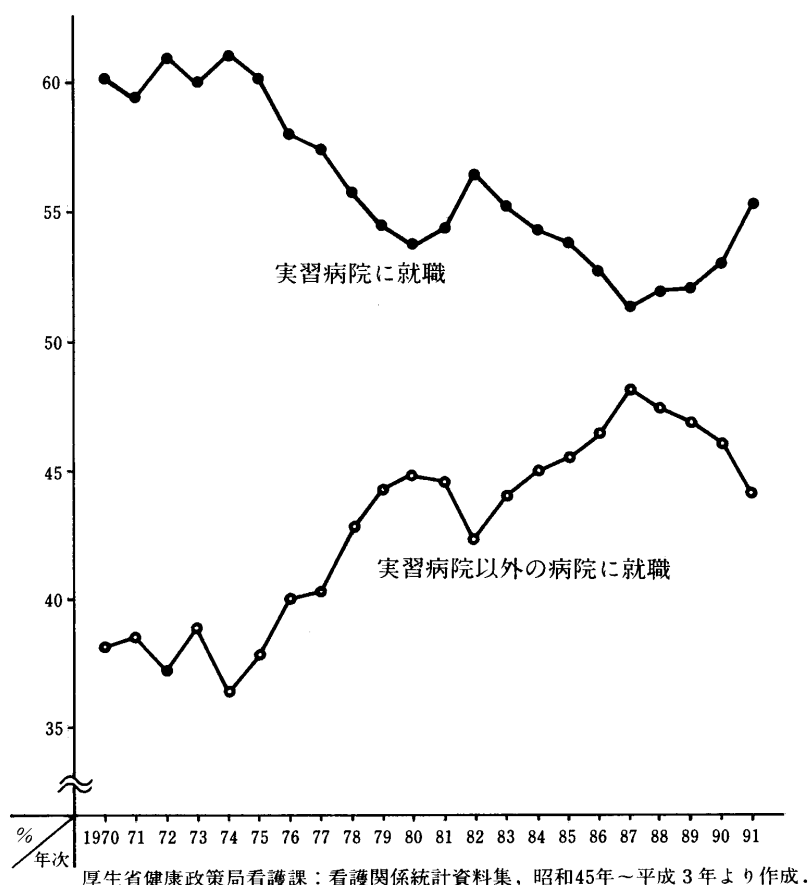
しかし、「教員が学校から再び臨床の場に戻りたいという異動を希望しても、臨床側に適切なポストがなく、学校と臨床とをフレキシブルに移動することが困難なため、学校に残らざるを得なくなっており、その結果、教員の平均年齢も上がった」という学校もある。

## 2. 実習病院と卒業時就業先

1970年から91年までの就業先の変化を、実習病院と実習病院以外の病院別にみた。これを見ると、実習病院以外に就業する割合が年々増えていることがわかる（図I-2）。就業先を年次別にみると、実習病院外に勤務した割合が高いのは、87年がピークである。

近年までは、病床が増え続けていた時期でもあり、看護婦の需要も高く、さまざまな施設から、新卒者の引き合いがあったと聞く。この引き合いのなかには、学生本人の奨学金を就職先の施設が肩代わりして返済し、さらに支度金などをつけるといった好条件をもち出す病院もあったといわれている。しかし、87年以降、再び実習病院への就職割合が増えはじめている。

実習を行う病院が病院附属の学校の場合、自病院でもある程度の実習ができるが、自病院では実習できない科目に関しては、他の施設を利用する。この「他の施設」は、実習を行うことの許可と交換条件に、一定数の卒業生を実習病院に就職させるよう学校側に要請しているといわれている。



図I-2 学生の就業先・年次別

3. 看護専修学校の教員の特徴  
— 看護教育調査 (1990年) より

1) 専任教員の一般学歴

看護専修学校 (3年課程) の教員の一般学歴は、高校卒業者が79.7%と最も多い。また大学卒業者割合は10.3%であった。これは、准看学校教員の大学卒業者割合の3.7%に次いで少ない割合である (表 I - 7)。

2) 看護教員としての経験年数

教員としての平均経験年数は、7.4年である。他の課程に勤務している教員とくらべて教員としての経験年数が短い (表 I - 8)。

3) 臨床看護の経験年数

臨床看護の平均経験年数は8.6年であり、他の

課程とくらべて臨床経験が長い (表 I - 9)。

4) 教員養成講習会の受講経験

教員養成講習会は、89.3%が受講していた。これは他の課程にくらべて高い割合である (表 I - 10)。なかでも厚生省看護研修センター・都道府県主催の受講者割合が高かった。

5) 看護教員になった動機

教員になった動機は、「職場の上司の命令から」が34.2%と最も高い。これは、他の課程ではみられない傾向である (表 I - 11)。

6) 業務時間・内訳 (教員1人あたり)

1週間あたりの講義数は、実習のない週では平均10.8時間と、他の課程にくらべて最も少ない (表 I - 12)。

表 I-7 専任教員の一般学歴

	高 衛 校	准 看 学 校	進 学 コ ー ス	3 年 課 程	短 大	大 学	複 数 課 程	不 明	全 体
中 学 校	0 ( - )	5 ( 0.5 )	0 ( - )	0 ( - )	0 ( - )	0 ( - )	0 ( - )	0 ( - )	5 ( 0.1 )
高 校	168 (55.3)	791 (83.8)	930 (74.9)	1474 (79.7)	126 (27.8)	9 ( 6.8 )	81 (49.4)	25 (71.4)	3604 (70.3)
短 大	30 ( 9.9 )	54 ( 5.7 )	98 ( 7.9 )	138 ( 7.5 )	58 (12.8)	3 ( 2.3 )	18 (11.0)	3 ( 8.6 )	402 ( 7.8 )
大 学	93 (30.6)	35 ( 3.7 )	164 (13.2)	190 (10.3)	192 (42.4)	70 (52.6)	53 (32.3)	5 (14.3)	802 (15.6)
大 学 院	0 ( - )	0 ( - )	1 ( 0.1 )	7 ( 0.4 )	50 (11.0)	44 (33.1)	8 ( 4.9 )	0 ( - )	110 ( 2.1 )
その他：新制度	3 ( 1.0 )	0 ( - )	1 ( 0.1 )	3 ( 0.2 )	1 ( 0.2 )	1 ( 0.8 )	0 ( - )	1 ( 2.9 )	10 ( 0.2 )
大学・大学院に在学中*	2 ( 0.7 )	12 ( 1.3 )	24 ( 1.9 )	26 ( 1.4 )	7 ( 1.5 )	2 ( 1.5 )	1 ( 0.6 )	1 ( 2.9 )	75 ( 1.5 )
旧 制 度	5 ( 1.6 )	40 ( 4.2 )	16 ( 1.3 )	12 ( 0.6 )	18 ( 4.0 )	4 ( 3.0 )	3 ( 1.8 )	0 ( - )	98 ( 1.9 )
無 回 答	3 ( 1.0 )	7 ( 0.7 )	8 ( 0.6 )	0 ( - )	1 ( 0.2 )	0 ( - )	0 ( - )	0 ( - )	19 ( 0.4 )
総 人 数	304 (100.0)	944 (100.0)	1242 (100.0)	1850 (100.0)	453 (100.0)	133 (100.0)	164 (100.0)	35 (100.0)	5125 (100.0)

注) \* 「その他：新制度」から分類。

表 I-8 看護教員としての経験年数

	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大 学	複数課程	不 明	全 体
0～3年未満	48 (15.8)	261 (27.6)	337 (27.1)	619 (33.5)	126 (27.8)	26 (19.5)	47 (28.7)	11 (31.4)	1475 (28.8)
3～5年未満	17 (5.6)	105 (11.1)	160 (12.9)	238 (12.9)	55 (12.1)	20 (15.0)	19 (11.6)	2 (5.7)	616 (12.0)
5～10年未満	49 (16.1)	212 (22.5)	283 (22.8)	433 (23.4)	71 (15.7)	23 (17.3)	34 (20.7)	7 (20.0)	1112 (21.7)
10～15年未満	50 (16.4)	167 (17.7)	224 (18.0)	292 (15.8)	81 (17.9)	19 (14.3)	22 (13.4)	11 (31.4)	866 (16.9)
15～20年未満	67 (22.0)	101 (10.7)	138 (11.1)	163 (8.8)	49 (10.8)	13 (9.8)	18 (11.0)	3 (8.6)	552 (10.8)
20～25年未満	49 (16.1)	47 (5.0)	63 (5.1)	67 (3.6)	37 (8.2)	18 (13.5)	13 (7.9)	1 (2.9)	295 (5.8)
25～30年未満	12 (3.9)	20 (2.1)	12 (1.0)	20 (1.1)	17 (3.8)	10 (7.5)	5 (3.0)	0 (-)	96 (1.9)
30年以上	2 (0.7)	11 (1.2)	6 (0.5)	7 (0.4)	16 (3.5)	4 (3.0)	3 (1.8)	0 (-)	49 (1.0)
無 回 答	10 (3.3)	20 (2.1)	19 (1.5)	11 (0.6)	1 (0.2)	0 (-)	3 (1.8)	0 (-)	64 (1.2)
総 人 数	304 (100.0)	944 (100.0)	1242 (100.0)	1850 (100.0)	453 (100.0)	133 (100.0)	164 (100.0)	35 (100.0)	5125 (100.0)
平均経験年数	12.7	8.7	8.4	7.4	10.2	11.6	9.3	8.3	8.6

表 I-9 臨床看護の経験年数

	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大 学	複数課程	不 明	全 体
0～3年未満	133 (43.8)	27 (2.9)	48 (3.9)	26 (1.4)	43 (9.5)	22 (16.5)	16 (9.8)	1 (2.9)	316 (6.2)
3～5年未満	61 (20.1)	171 (18.1)	208 (16.7)	301 (16.3)	104 (23.0)	39 (29.3)	47 (28.7)	5 (14.3)	936 (18.3)
5～10年未満	80 (26.3)	446 (47.2)	562 (45.2)	917 (49.6)	172 (38.0)	39 (29.3)	64 (39.0)	15 (42.9)	2295 (44.8)
10～15年未満	15 (4.9)	182 (19.3)	266 (21.4)	403 (21.8)	67 (14.8)	17 (12.8)	24 (14.6)	8 (22.9)	982 (19.2)
15～20年未満	9 (3.0)	65 (6.9)	93 (7.5)	131 (7.1)	28 (6.2)	7 (5.3)	6 (3.7)	4 (11.4)	343 (6.7)
20～25年未満	1 (0.3)	22 (2.3)	39 (3.1)	49 (2.6)	18 (4.0)	5 (3.8)	6 (3.7)	1 (2.9)	141 (2.8)
25～30年未満	1 (0.3)	9 (1.0)	4 (0.3)	11 (0.6)	7 (1.5)	2 (1.5)	1 (0.6)	0 (-)	35 (0.7)
30年以上	0 (-)	13 (1.4)	9 (0.7)	6 (0.3)	9 (2.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	37 (0.7)
無 回 答	4 (1.3)	9 (1.0)	13 (1.0)	6 (0.3)	5 (1.1)	2 (1.5)	0 (-)	1 (2.9)	40 (0.8)
総 人 数	304 (100.0)	944 (100.0)	1242 (100.0)	1850 (100.0)	453 (100.0)	133 (100.0)	164 (100.0)	35 (100.0)	5125 (100.0)
平均経験年数	4.0	8.6	8.6	8.6	8.5	6.8	7.2	8.9	8.2

表 I-10 教員養成のための講習会の受講経験

	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大 学	複数課程	不 明	全 体
受けたことがない	181 (59.5)	297 (31.5)	191 (15.4)	153 ( 8.3)	165 (36.4)	79 (59.4)	63 (38.4)	5 (14.3)	1134 (22.1)
1 回 受 講	63 (20.7)	552 (58.5)	940 (75.7)	1582 (85.5)	216 (47.7)	34 (25.6)	86 (52.4)	22 (62.9)	3495 (68.2)
2 回 受 講	14 ( 4.6)	24 ( 2.5)	48 ( 3.9)	65 ( 3.5)	42 ( 9.3)	2 ( 1.5)	5 ( 3.0)	2 ( 5.7)	202 ( 3.9)
3 回 受 講	0 ( - )	3 ( 0.3)	1 ( 0.1)	5 ( 0.3)	1 ( 0.2)	0 ( - )	0 ( - )	1 ( 2.9)	11 ( 0.2)
無 回 答	46 (15.1)	68 ( 7.2)	62 ( 5.0)	45 ( 2.4)	29 ( 6.4)	18 (13.5)	10 ( 6.1)	5 (14.3)	283 ( 5.5)
総 人 数	304 (100.0)	944 (100.0)	1242 (100.0)	1850 (100.0)	453 (100.0)	133 (100.0)	164 (100.0)	35 (100.0)	5125 (100.0)

自分の研究時間に費やす時間は短い、学生の相談やアドバイス、部活動、学校行事などの学生指導、会議、事務などに費やす時間は、他の課程にくらべて長い。

7) 専任の臨床実習指導者の有無

専任の臨床実習指導者が学校にいる割合は8%であった。臨床実習指導者の多くは、実習施設の職員が兼任あるいは、学校の専任教員が兼任している(表I-13)。

8) 教員が感じている教育活動における問題点

教育活動の問題点21項目をあらかじめ設定し、それが「問題として感じている」と答えている割合が、「感じていない」割合よりも高いのは、次のとおりである。

「受け持ちの学生が多い」「学生の質の低下」「実習施設側の意向が強い」「設置主体の意向が強い」「教務主任や学部長などの管理職との人間関係」「学校の予算の不足」「学校の予算に教員の意向が反映されない」「教員に対する研究費の不足」「自分の研究時間や研修時間がとれない」「職場における教育業務以外の仕事が多すぎる」

「担当する科目数・時間数が多すぎる」「自分の専門以外の教科を担当しなければならない」「臨床実習施設の教育への無理解」「看護教員の給料が低い」「家庭との両立がむずかしい」「自分の教員としての能力や資質の不足」などである。

また、これらの問題点のなかでも他の課程とくらべて、「感じている」と答えている割合が高いのは、「教務主任や学部長などの管理職との人間関係」「学校の予算不足」「教員に対する研究費の不足」「自分の研究時間や研修時間がとれない」「職場における教育業務以外の仕事が多すぎる」「担当する科目数・時間数が多すぎる」「自分の専門以外の教科を担当しなければならない」「家庭との両立がむずかしい」「自分の教員としての能力や資質の不足」などであった。

またこれを、専任教員と教務主任とでくらべると、専任教員のほうが問題であると答えている割合が多い。特に顕著だったのは、「受け持ちの学生が多い」「実習施設側の意向が強い」「同僚や先輩の教員との人間関係」「教務主任や学部長などの管理職との人間関係」「担当する科目数・時間数が多すぎる」「自分の専門以外の教科を担当しなければならない」「臨床実習施設の教育への

無理解」「家庭との両立がむずかしい」などであった(図I-3)。

9) 看護教員としての職業満足度

看護専修学校(3年課程)の教員は、教員としての職業に「満足していない」と答えている割合が、他の課程にくらべて最も高い(表I-14)。

10) 看護教員としてのやりがい

教員としてやりがいを「感じていない」と答えている割合は、看護専修学校(3年課程)の教員が12.4%で、課程別にみた割合では一番多い(表I-15)。

表I-11 看護教員になった動機(複数回答)

	高 校 衛 看	准 看 学 校	進 学 コ ー ス	3 年 課 程	短 大	大 学	複 数 課 程	不 明	全 体
以前から教員になろうと 考えていたから	④ 74 (24.3)	107 (11.3)	196 (15.8)	234 (12.6)	④ 98 (21.6)	⑤ 20 (15.0)	③ 36 (22.0)	③ 9 (25.7)	774 (15.1)
尊敬する看護教員がいた から	17 (5.6)	64 (6.8)	96 (7.7)	111 (6.0)	44 (9.7)	10 (7.5)	12 (7.3)	3 (8.6)	357 (7.0)
臨床よりも教育に興味 をもったから	① 81 (26.6)	⑤ 220 (23.3)	① 302 (24.3)	④ 378 (20.4)	⑤ 91 (20.1)	15 (11.3)	④ 33 (20.1)	① 12 (34.3)	③ 1132 (22.1)
教員が自分の社会的地位 を高めると考えたから	10 (3.3)	31 (3.3)	32 (2.6)	57 (3.1)	26 (5.7)	2 (1.5)	6 (3.7)	6 (17.1)	170 (3.3)
結婚し家事や育児を両立 させるため	① 81 (26.6)	③ 278 (29.4)	205 (16.5)	159 (8.6)	33 (7.3)	10 (7.5)	23 (14.0)	⑤ 8 (22.9)	797 (15.6)
親・きょうだい・配偶者 の希望や勧めから	32 (10.5)	54 (5.7)	62 (5.0)	61 (3.3)	16 (3.5)	2 (1.5)	8 (4.9)	2 (5.7)	237 (4.6)
勤務地と自宅との地理的 な条件のため(転勤など を含む)	63 (20.7)	④ 224 (23.7)	165 (13.3)	99 (5.4)	16 (3.5)	5 (3.8)	11 (6.7)	7 (20.0)	590 (11.5)
前の職場を逃れたかっ たから	10 (3.3)	42 (4.4)	74 (6.0)	91 (4.9)	26 (5.7)	2 (1.5)	8 (4.9)	2 (5.7)	255 (5.0)
夜勤を逃れたかっ たから	57 (18.8)	② 291 (30.8)	⑤ 258 (20.8)	251 (13.6)	67 (14.8)	11 (8.3)	30 (18.3)	③ 9 (25.7)	974 (19.0)
職場の上司の命令から	9 (3.0)	121 (12.8)	256 (20.6)	① 633 (34.2)	70 (15.5)	12 (9.0)	23 (14.0)	4 (11.4)	④ 1128 (22.0)
再就職を求めたら看護 教員の職があったから	⑤ 70 (23.0)	① 325 (34.4)	④ 264 (21.3)	152 (8.2)	27 (6.0)	7 (5.3)	16 (9.8)	② 10 (28.6)	871 (17.0)
職場の上司や先輩の勧め から	43 (14.1)	205 (21.7)	① 302 (24.3)	② 578 (31.2)	③ 122 (26.9)	③ 37 (27.8)	② 41 (25.0)	⑤ 8 (22.9)	① 1336 (26.1)
出身校の先生・先輩・友 人の勧めから	③ 80 (26.3)	183 (19.4)	③ 282 (22.7)	⑤ 337 (18.2)	① 169 (37.3)	① 59 (44.4)	① 53 (32.3)	4 (11.4)	② 1167 (22.8)
教員がむいていると考 えていたから	30 (9.9)	79 (8.4)	97 (7.8)	111 (6.0)	55 (12.1)	⑤ 20 (15.0)	17 (10.4)	6 (17.1)	415 (8.1)
看護の現状を考えると 教育が大事と考えたから	41 (13.5)	121 (12.8)	220 (17.7)	③ 391 (21.1)	② 134 (29.6)	② 49 (36.8)	⑤ 32 (19.5)	7 (20.0)	⑤ 995 (19.4)
特に理由や動機はない	11 (3.6)	23 (2.4)	18 (1.4)	48 (2.6)	7 (1.5)	4 (3.0)	4 (2.4)	1 (2.9)	116 (2.3)
そ の 他	30 (9.9)	59 (6.3)	134 (10.8)	242 (13.1)	69 (15.2)	④ 24 (18.0)	31 (18.9)	4 (11.4)	593 (11.6)
無 回 答	5 (1.6)	3 (0.3)	5 (0.4)	6 (0.3)	2 (0.4)	0 (-)	1 (0.6)	0 (-)	22 (0.4)
総 人 数	304 (100.0)	944 (100.0)	1242 (100.0)	1850 (100.0)	453 (100.0)	133 (100.0)	164 (100.0)	35 (100.0)	5125 (100.0)

注) ○の中の数字は、上位5位までの順位。



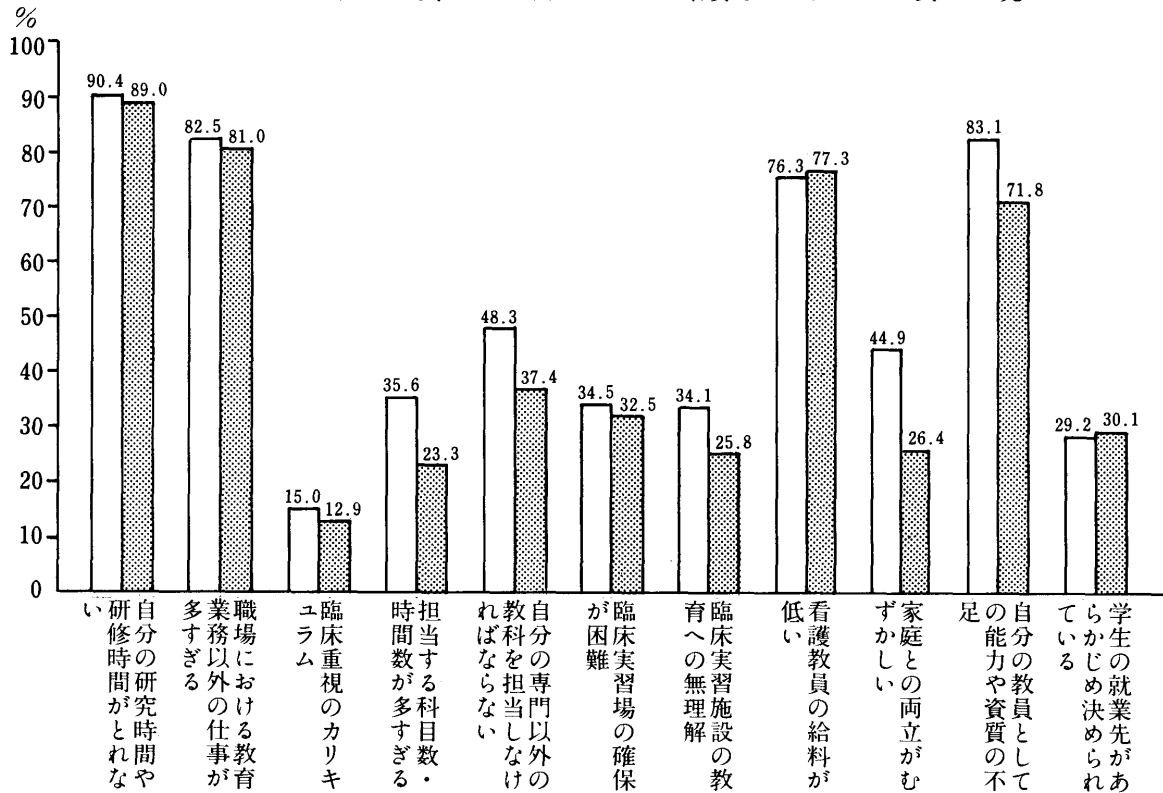
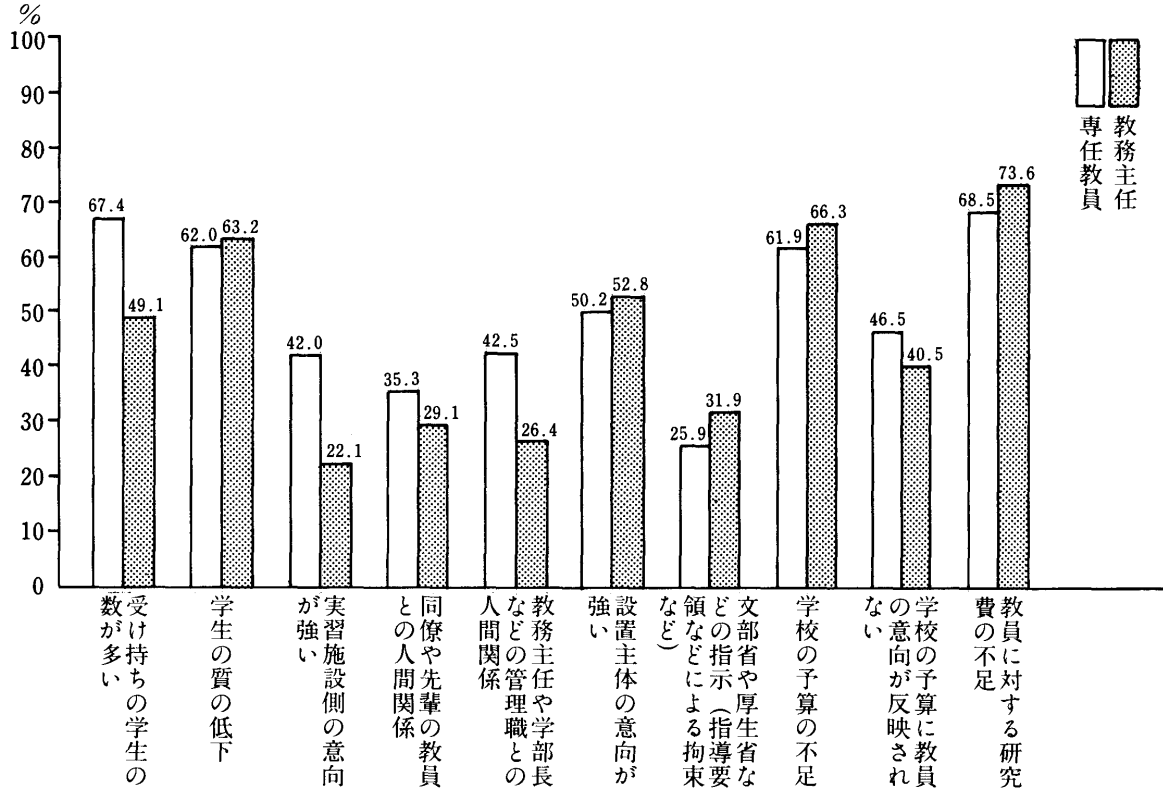
1993年 看護基礎教育の課題

表 I-12 1週間あたりの講義・授業に関する時間

	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大 学	複数課程	不 明	全 体
(実習がない週)									
0 時間	7(2.3)	8(0.8)	20(1.6)	18(1.0)	22(4.9)	5(3.8)	10(6.1)	0(-)	90(1.8)
1 時間	1(0.3)	0(-)	2(0.2)	1(0.1)	2(0.4)	3(2.3)	0(-)	0(-)	9(0.2)
2 時間	0(-)	10(1.1)	26(2.1)	25(1.4)	5(1.1)	3(2.3)	3(1.8)	1(2.9)	73(1.4)
3 時間	2(0.7)	23(2.4)	43(3.5)	45(2.4)	3(0.7)	0(-)	2(1.2)	0(-)	118(2.3)
4 時間	1(0.3)	52(5.5)	73(5.9)	98(5.3)	11(2.4)	2(1.5)	7(4.3)	3(8.6)	247(4.8)
5 時間	0(-)	25(2.6)	54(4.3)	70(3.8)	11(2.4)	2(1.5)	4(2.4)	2(5.7)	168(3.3)
6~7時間	4(1.3)	106(11.2)	132(10.6)	221(11.9)	35(7.7)	6(4.5)	10(6.1)	2(5.7)	516(10.1)
8~9時間	1(0.3)	115(12.2)	153(12.3)	225(12.2)	28(6.2)	19(14.3)	16(9.8)	3(8.6)	560(10.9)
10~19時間	76(25.0)	280(29.7)	360(29.0)	517(27.9)	163(36.0)	47(35.3)	47(28.7)	4(11.4)	1494(29.2)
20~29時間	100(32.9)	69(7.3)	109(8.8)	118(6.4)	69(15.2)	11(8.3)	23(14.0)	4(11.4)	503(9.8)
30時間以上	32(10.5)	14(1.5)	36(2.9)	25(1.4)	30(6.6)	7(5.3)	1(0.6)	2(5.7)	147(2.9)
無 回 答	80(26.3)	242(25.6)	234(18.8)	487(26.3)	74(16.3)	28(21.1)	41(25.0)	14(40.0)	1200(23.4)
平均時間	20.8	11.3	11.4	10.8	14.8	14.1	11.9	12.8	12.1
(実習がある週)									
0 時間	31(10.2)	58(6.1)	119(9.6)	139(7.5)	82(18.1)	37(27.8)	30(18.3)	2(5.7)	498(9.7)
1 時間	3(1.0)	6(0.6)	14(1.1)	12(0.6)	5(1.1)	4(3.0)	2(1.2)	0(-)	46(0.9)
2 時間	2(0.7)	26(2.8)	95(7.6)	110(5.9)	13(2.9)	0(-)	14(8.5)	2(5.7)	262(5.1)
3 時間	5(1.6)	48(5.1)	67(5.4)	106(5.7)	12(2.6)	1(0.8)	4(2.4)	2(5.7)	245(4.8)
4 時間	6(2.0)	69(7.3)	128(10.3)	195(10.5)	24(5.3)	7(5.3)	9(5.5)	3(8.6)	441(8.6)
5 時間	7(2.3)	42(4.4)	60(4.8)	114(6.2)	25(5.5)	6(4.5)	7(4.3)	3(8.6)	264(5.2)
6~7時間	24(7.9)	131(13.9)	196(15.8)	285(15.4)	49(10.8)	8(6.0)	18(11.0)	5(14.3)	716(14.0)
8~9時間	24(7.9)	108(11.4)	118(9.5)	218(11.8)	31(6.8)	12(9.0)	20(12.2)	2(5.7)	533(10.4)
10~19時間	87(28.6)	162(17.2)	143(11.5)	293(15.8)	114(25.2)	18(13.5)	28(17.1)	3(8.6)	848(16.5)
20~29時間	33(10.9)	22(2.3)	23(1.9)	31(1.7)	16(3.5)	1(0.8)	2(1.2)	1(2.9)	129(2.5)
30時間以上	5(1.6)	4(0.4)	4(0.3)	1(0.1)	5(1.1)	2(1.5)	1(0.6)	0(-)	22(0.4)
無 回 答	77(25.3)	268(28.4)	275(22.1)	346(18.7)	77(17.0)	37(27.8)	29(17.7)	12(34.3)	1121(21.9)
平均時間	11.6	7.6	6.1	6.6	7.8	6.0	6.1	6.3	7.0
総人数	304 (100.0)	944 (100.0)	1242 (100.0)	1850 (100.0)	453 (100.0)	133 (100.0)	164 (100.0)	35 (100.0)	5125 (100.0)

表 I-13 専任の臨床実習指導者の有無 (複数回答)

	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大 学	全 体
学校に専任がいる	2(3.1)	22(7.9)	49(18.6)	24(8.0)	12(27.3)	4(40.0)	113(11.8)
学校の専任教員が兼任	47(73.4)	190(68.1)	201(76.1)	203(67.7)	36(81.8)	9(90.0)	686(71.4)
実習施設に専任がいる	7(10.9)	27(9.7)	34(12.9)	37(12.3)	4(9.1)	1(10.0)	110(11.4)
実習施設の職員が兼任	44(68.8)	236(84.6)	194(73.5)	233(77.7)	30(68.2)	1(10.0)	738(76.8)
そ の 他	3(4.7)	7(2.5)	8(3.0)	2(0.7)	6(13.6)	1(10.0)	27(2.8)
無 回 答	1(1.6)	0(-)	0(-)	1(0.3)	1(2.3)	0(-)	3(0.3)
学 校 総 数	64(100.0)	279(100.0)	264(100.0)	300(100.0)	44(100.0)	10(100.0)	961(100.0)



図I-3 教育活動における問題点

## 11) 学校に対する満足度

教員が学校に対して「不満を感じている」割合は、課程別にみると進学コースが56.7%と最も高い。しかし、看護専修学校（3年課程）との差はわずかに0.9%である（表I-16）。

## 4. 看護専修学校教員の問題意識 —— 教員が所属する学校の設置主体別分析

教育活動における問題点の有無（教員自身の主観的問題意識）について、設置主体別に比較する。

設置主体は、国立、都道府県立、市町村立を「国公立」としてまとめ、日赤、済生会、厚生連、北社協、厚生団、船員保険会、健保連、国保組合、

表I-14 看護教員としての職業満足度・課程別

課程別	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大 学
不満群	19.1%	27.2%	30.1%	37.6%	18.3%	13.6%
中立	30.6	32.3	32.3	29.7	29.8	27.1
満足群	48.4	39.2	36.6	31.7	51.9	58.7
無回答	2.0	1.3	1.0	1.0	0.0	0.8
合計	100.0 (N=304)	100.0 (N=944)	100.0 (N=1242)	100.0 (N=1850)	100.0 (N=453)	100.0 (N=133)

注) 不満群は、教員という職業に「満足していない」と「全く満足していない」と答えている割合をたしたもの。満足群は「非常に満足」「満足」をたしたもの。

表I-15 看護教員としてのやりがい・課程別

課程別	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大 学
感じていない	8.2%	11.0%	10.7%	12.4%	7.1%	1.5%
中立	30.3	34.2	32.8	35.5	30.7	23.3
感じている	59.2	53.8	55.6	51.3	62.3	75.2
無回答	2.3	1.0	1.0	0.8	0.0	0.0
合計	100.0 (N=304)	100.0 (N=944)	100.0 (N=1242)	100.0 (N=1850)	100.0 (N=453)	100.0 (N=133)

表I-16 学校に対する満足度・課程別

課程別	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大 学
不満群	29.9%	52.8%	56.7%	55.8%	42.4%	31.6%
中立	32.2	30.0	29.6	27.2	30.9	33.8
満足度	35.6	15.8	12.5	15.5	26.0	33.1
無回答	2.3	1.5	1.1	1.4	0.7	1.5
合計	100.0 (N=304)	100.0 (N=944)	100.0 (N=1242)	100.0 (N=1850)	100.0 (N=453)	100.0 (N=133)

注) 不満群は、教員という職業に「満足していない」と「全く満足していない」と答えている割合をたしたもの。満足群は「非常に満足」「満足」をたしたもの。

共済組合、全社連を「準公立」としてまとめ、医師会、医療法人、学校法人、その他の設置主体を「その他」としてまとめた。

表は、カイ2乗検定を行った結果、統計的に有意な差が出たものについてのみ採用した。なお、この結果は「1991年看護教育調査」を再分析したものである。

①「受け持ちの学生の数が多い」のが問題である

と答えている割合が高いのは、「国公立」69.9%、「その他」の69.8%であった(表I-17)。

②「学生の質の低下」が問題であると答えている割合が高いのは、「その他」の69.7%であった(表I-18)。

③「教務主任や学部長などの管理職との人間関係」が問題であると答えている割合が高いのは、「準公立」の50.6%であった(表I-19)。

表 I-17 受け持ちの学生の数が多い

	は	い	いいえ	どちらでもない	合計
国公立	664 (69.9)		143 (15.1)	143 (15.1)	950 (100.0)
準公立	175 (55.6)		77 (24.4)	63 (20.0)	315 (100.0)
その他	354 (69.8)		83 (16.4)	70 (13.8)	507 (100.0)
合計	1193 (67.3)		303 (17.1)	276 (15.6)	1772 (100.0)

注) カイ2乗値=25.45015 自由度=4 有意差=P<0.001 欠損値=78

表 I-18 学生の質の低下

	は	い	いいえ	どちらでもない	合計
国公立	621 (65.0)		118 (12.4)	216 (22.6)	955 (100.0)
準公立	173 (55.1)		60 (19.1)	81 (25.8)	314 (100.0)
その他	357 (69.7)		45 (8.8)	110 (21.5)	512 (100.0)
合計	1151 (64.6)		223 (12.5)	407 (22.9)	1781 (100.0)

注) カイ2乗値=24.72850 自由度=4 有意差=P<0.01 欠損値=69

表 I-19 教務主任や学部長などの管理職との人間関係

	は	い	いいえ	どちらでもない	合計
国公立	359 (38.2)		330 (35.1)	252 (26.8)	941 (100.0)
準公立	159 (50.6)		79 (25.2)	76 (24.2)	314 (100.0)
その他	199 (38.9)		177 (34.6)	135 (26.4)	511 (100.0)
合計	717 (40.6)		586 (33.2)	463 (26.2)	1766 (100.0)

注) カイ2乗値=17.56103 自由度=4 有意差=P<0.1 欠損値=84

表 I-20 設置主体の意向が強い

	は	い	いいえ	どちらでもない	合計
国公立	421 (44.5)		275 (29.0)	251 (26.5)	947 (100.0)
準公立	162 (51.8)		68 (21.7)	83 (26.5)	313 (100.0)
その他	321 (62.0)		91 (17.6)	106 (20.5)	518 (100.0)
合計	904 (50.8)		434 (24.4)	440 (24.7)	1778 (100.0)

注) カイ2乗値=44.85414 自由度=4 有意差=P<0.001 欠損値=72

④「設置主体の意向が強い」のが問題と答えている割合が高いのは、「その他」の62.0%であった(表I-20)。

⑤「文部省や厚生省などの指示(指導要領などによる拘束など)」が問題と答えている割合が高いのは、「国公立」の32.8%であった(表I-21)。

⑥「学校の予算の不足」が問題と答えている割合

が高いのは、「国公立」の71.0%であった(表I-22)。

⑦「教員に対する研究費の不足」が問題と答えている割合が高いのは、「国公立」の77.8%であった(表I-23)。

⑧「職場における教育業務以外の仕事が多すぎる」のが問題と答えている割合が高いのは、「準公立」の87.8%、「国公立」の86.5%であった(表I-24)。

表I-21 文部省や厚生省などの指示(指導要領などによる拘束など)

	は	い	いいえ	どちらでもない	合計			
国公立	310	( 32.8)	272	( 28.8)	363	( 38.4)	945	(100.0)
準公立	59	( 19.0)	118	( 38.1)	133	( 42.9)	310	(100.0)
その他	116	( 22.7)	184	( 36.0)	211	( 41.3)	511	(100.0)
合計	485	( 27.5)	574	( 32.5)	707	( 40.0)	1766	(100.0)

注) カイ2乗値=32.42424 自由度=4 有意差=P<0.001 欠損値=84

表I-22 学校の予算の不足

	は	い	いいえ	どちらでもない	合計			
国公立	678	( 71.0)	108	( 11.3)	169	( 17.7)	955	(100.0)
準公立	181	( 57.8)	65	( 20.8)	67	( 21.4)	313	(100.0)
その他	288	( 55.5)	109	( 21.0)	122	( 23.5)	519	(100.0)
合計	1147	( 64.2)	282	( 15.8)	358	( 20.0)	1787	(100.0)

注) カイ2乗値=47.00370 自由度=4 有意差=P<0.01 欠損値=63

表I-23 教員に対する研究費の不足

	は	い	いいえ	どちらでもない	合計			
国公立	738	( 77.8)	60	( 6.3)	151	( 15.9)	949	(100.0)
準公立	205	( 65.9)	43	( 13.8)	63	( 20.3)	311	(100.0)
その他	334	( 64.7)	62	( 12.0)	120	( 23.3)	516	(100.0)
合計	1277	(71.9)	165	( 9.3)	334	( 18.8)	1776	(100.0)

注) カイ2乗値=39.79968 自由度=4 有意差=P<0.001 欠損値=74

表I-24 職場における教育業務以外の仕事が多すぎる

	は	い	いいえ	どちらでもない	合計			
国公立	827	( 86.5)	35	( 3.7)	94	( 9.8)	956	(100.0)
準公立	280	( 87.8)	13	( 4.1)	26	( 8.2)	319	(100.0)
その他	393	( 75.3)	53	( 10.2)	76	( 14.6)	522	(100.0)
合計	1500	( 83.5)	101	( 5.6)	196	( 10.9)	1797	(100.0)

注) カイ2乗値=42.53687 自由度=4 有意差=P<0.001 欠損値=53

表 I-25 臨床実習場の確保が困難

	は い	い い え	どちらでもない	合 計
国 公 立	378 (40.0)	399 (42.2)	169 (17.9)	946 (100.0)
準 公 立	43 (13.7)	210 (66.9)	61 (19.4)	314 (100.0)
そ の 他	212 (41.2)	221 (42.9)	82 (15.9)	515 (100.0)
合 計	633 (35.7)	830 (46.8)	312 (17.6)	1775 (100.0)

注) カイ 2 乗値=86.27626 自由度=4 有意差=P<0.001 欠損値=75

⑨「臨床実習場の確保が困難」と答えている割合

が高いのは、「その他」の41.2%、「国公立」40.0%であった(表 I-25)。

これらの結果から、教育活動における問題点を強く感じているのは、「国公立」「その他」の設置主体の学校に所属する教員たちにその割合が高く、「準公立」は、「職場の人間関係」「職場における教育業務以外の仕事が多すぎる」という点を除いて、他の設置主体に所属する教員たちよりも問題点を感じている割合が少ないという傾向が読み取られた。

### 5. 看護専修学校における看護学生の特徴 ——看護学生調査より

看護専修学校(3年課程)の看護学生の特徴的な部分を「1992年看護学生の進路選択に関する調査」より明らかにする。なお、この調査は最終学年を対象に行ったものである。

- ①入学者の9割が高校卒業後すぐに入学した現役者で占められている(表 I-26)。
- ②現在通っている学校が「第1志望ではない」と答えている学生の第1志望の最も多かったのは、看護短期大学の36.3%であった(表 I-27)。
- ③この学校に入学してよかったと思うこととして、「自分が人間的に成長した」と答えている割合

表 I-26 学生の年齢構成

	准 看 学 校	高 校 衛 看	3 年 課 程	短 大	大 学
~18歳	46 (2.8)	590 (92.6)	0 (—)	0 (—)	0 (—)
19歳	282 (17.5)	40 (6.3)	0 (—)	0 (—)	0 (—)
20歳	830 (51.4)	3 (0.5)	357 (27.0)	40 (24.2)	0 (—)
21歳	128 (7.9)	1 (0.2)	836 (63.3)	110 (66.7)	47 (25.5)
22歳	67 (4.2)	0 (—)	99 (7.5)	12 (7.3)	103 (56.0)
23歳	54 (3.3)	0 (—)	17 (1.3)	2 (1.2)	24 (13.0)
24歳	43 (2.7)	0 (—)	4 (0.3)	0 (—)	6 (3.3)
25~29歳	71 (4.4)	0 (—)	2 (0.2)	0 (—)	3 (1.6)
30歳以上	88 (5.5)	0 (—)	2 (0.2)	0 (—)	1 (0.5)
無 回 答	5 (0.3)	3 (0.5)	4 (0.3)	1 (0.6)	0 (—)
合 計	1,614(100.0)	637(100.0)	1,321(100.0)	165(100.0)	184(100.0)

表 I-27 第1志望の学校

	准 看 学 校	高 校 衛 看	3 年 課 程	短 大	大 学
第1志望の学校だった	980 (60.7)	578 (90.7)	777 (58.8)	97 (58.8)	107 (58.2)
第1志望の学校ではな かった	605 (37.5)	53 ( 8.3)	510 (38.6)	65 (39.4)	72 (39.1)
無 回 答	29 ( 1.8)	6 ( 0.9)	34 ( 2.6)	3 ( 1.8)	5 ( 2.7)
合 計	1,614 (100.0)	637 (100.0)	1,321 (100.0)	165 (100.0)	184 (100.0)

→ 第1志望はどのような種類の学校でしたか

看護大学	5 ( 0.8)	1 ( 1.9)	45 ( 8.8)	21 (32.3)	31 (43.1)
看護短期大学	43 ( 7.1)	3 ( 5.7)	185 (36.3)	11 (16.9)	9 (12.5)
3年制看護学校	441 (72.9)	8 (15.1)	163 (32.0)	5 ( 7.7)	3 ( 4.2)
看護以外の大学	18 ( 3.0)	2 ( 3.8)	68 (13.3)	20 (30.8)	22 (30.6)
看護以外の短期大学	19 ( 3.1)	0 ( — )	20 ( 3.9)	5 ( 7.7)	1 ( 1.4)
その他の学校	69 (11.4)	35 (66.0)	24 ( 4.7)	2 ( 3.1)	5 ( 6.9)
無 回 答	10 ( 1.7)	4 ( 7.5)	5 ( 1.0)	1 ( 1.5)	1 ( 1.4)
合 計	605 (100.0)	53 (100.0)	510 (100.0)	65 (100.0)	72 (100.0)

表 I-28 この学校に入学してよかったと思うこと (複数回答)

	准 看 学 校	高 校 衛 看	3 年 課 程	短 大	大 学
看護の知識や技術が身 についた	991 (61.4)	397 (62.3)	719 (54.4)	79 (47.9)	71 (38.6)
自分が人間的に成長し た	647 (40.1)	314 (49.3)	751 (56.9)	93 (56.4)	97 (52.7)
信頼できる友人と出会 えた	462 (28.6)	271 (42.5)	562 (42.5)	89 (53.9)	79 (42.9)
信頼できる教員と出会 えた	123 ( 7.6)	27 ( 4.2)	40 ( 3.0)	14 ( 8.5)	8 ( 4.3)
視野が広がった	574 (35.6)	251 (39.4)	464 (35.1)	71 (43.0)	93 (50.5)
やりがいを見いだせた	322 (20.0)	118 (18.5)	171 (12.9)	11 ( 6.7)	27 (14.7)
看護の奥深さを知った	711 (44.1)	280 (44.0)	477 (36.1)	54 (32.7)	65 (35.3)
チームワークの大切さ を知った	263 (16.3)	73 (11.5)	170 (12.9)	18 (10.9)	18 ( 9.8)
そ の 他	28 ( 1.7)	8 ( 1.3)	24 ( 1.8)	3 ( 1.8)	4 ( 2.2)
回 答 者 数	1,614 (100.0)	637 (100.0)	1,321 (100.0)	165 (100.0)	184 (100.0)

表 I-29 学校をやめようと思ったこととやめないでいられた理由

	准 看 学 校	高 校 衛 看	3 年 課 程	短 大	大 学
やめようと思ったことがある	910 (56.4)	315 (49.5)	966 (73.1)	96 (58.2)	88 (47.8)
やめようと思ったことはない	693 (42.9)	314 (49.3)	333 (25.2)	63 (38.2)	94 (51.1)
無 回 答	11 ( 0.7)	8 ( 1.3)	22 ( 1.7)	6 ( 3.6)	2 ( 1.1)
合 計	1,614 (100.0)	637 (100.0)	1,321 (100.0)	165 (100.0)	184 (100.0)
→ やめようと思った理由 (3つまで○)					
看護の職場に魅力がないと思った	122 (13.4)	38 (12.1)	140 (14.5)	17 (17.7)	17 (19.3)
自分の性格が看護職に向いていないと思った	419 (46.0)	175 (55.6)	589 (61.0)	68 (70.8)	57 (64.8)
実習で落ち込んだ	224 (24.6)	95 (30.2)	461 (47.7)	42 (43.8)	25 (28.4)
講義内容がつまらなかった	29 ( 3.2)	20 ( 6.3)	59 ( 6.1)	12 (12.5)	19 (21.6)
友人関係がうまくいかなかった	69 ( 7.6)	41 (13.0)	69 ( 7.1)	4 ( 4.2)	6 ( 6.8)
実習先の看護職がいやだった	142 (15.6)	39 (12.4)	200 (20.7)	17 (17.7)	17 (19.3)
自分の能力の限界を感じたとき	247 (27.1)	100 (31.7)	335 (34.7)	29 (30.2)	24 (27.3)
これから自分が何をしたらよいかわからなくなった	295 (32.4)	137 (43.5)	342 (35.4)	44 (45.8)	30 (34.1)
教員への不満	102 (11.2)	59 (18.7)	177 (18.3)	3 ( 3.1)	9 (10.2)
体がもたないと感じた	295 (32.4)	55 (17.5)	197 (20.4)	23 (24.0)	10 (11.4)
仕事と通学との両立に限界を感じた	374 (41.1)	26 ( 8.3)	21 ( 2.2)	0 ( — )	0 ( — )
そ の 他	149 (16.4)	45 (14.3)	87 ( 9.0)	9 ( 9.4)	11 (12.5)
回 答 者 数	910 (100.0)	315 (100.0)	966 (100.0)	96 (100.0)	88 (100.0)
→ やめないでいられた理由 (複数回答)					
時間が解決してくれた	216 (23.7)	93 (29.5)	280 (29.0)	31 (32.3)	20 (22.7)
教員の援助があった	62 ( 6.8)	18 ( 5.7)	45 ( 4.7)	4 ( 4.2)	6 ( 6.8)
学校の友人の援助があった	193 (21.2)	84 (26.7)	299 (31.0)	25 (26.0)	20 (22.7)
学校以外の友人の援助があった	173 (19.0)	39 (12.4)	169 (17.5)	13 (13.5)	12 (13.6)
家族の援助があった	163 (17.9)	48 (15.2)	171 (17.7)	18 (18.8)	14 (15.9)
自分の力で乗り切った	317 (34.8)	103 (32.7)	315 (32.6)	33 (34.4)	20 (22.7)
そ の 他	75 ( 8.2)	25 ( 7.9)	74 ( 7.7)	4 ( 4.2)	16 (18.2)
回 答 者 数	910 (100.0)	315 (100.0)	966 (100.0)	96 (100.0)	88 (100.0)



が56.9%と最も高い(表I-28)。

I-29)。

④「信頼できる教員と出会えた」と答えている割合が3%と、他の課程とくらべて低い(表I-28)。

⑥学校をやめようと思った理由は、「実習で落ち込んだ」「実習先の看護職がいやだった」「自分の能力の限界を感じたとき」の3項目が、他の課程にくらべて割合が高かった(表I-29)。

⑤「学校をやめようと思ったことがある」と答えている割合が73.1%と、最も割合が高い(表

表I-30 患者から必要な情報を聞き出せなかったこと

	准看学校	高校衛看	3年課程	短大	大学
あった	845 (52.4)	379 (59.5)	1,038 (78.6)	125 (75.8)	143 (77.7)
なかった	735 (45.5)	250 (39.2)	264 (20.0)	35 (21.2)	38 (20.7)
無回答	34 (2.1)	8 (1.3)	19 (1.4)	5 (3.0)	3 (1.6)
合計	1,614 (100.0)	637 (100.0)	1,321 (100.0)	165 (100.0)	184 (100.0)
→ その後解決されましたか					
はい	566 (67.0)	277 (73.1)	752 (72.4)	80 (64.0)	80 (55.9)
いいえ	272 (32.2)	99 (26.1)	279 (26.9)	44 (35.2)	58 (40.6)
無回答	7 (0.8)	3 (0.8)	7 (0.7)	1 (0.8)	5 (3.5)
合計	845 (100.0)	379 (100.0)	1,038 (100.0)	125 (100.0)	143 (100.0)

表I-31 実習記録が思うように書けなかったこと

	准看学校	高校衛看	3年課程	短大	大学
あった	1305 (80.9)	507 (79.6)	1,165 (88.2)	141 (85.5)	178 (96.7)
なかった	279 (17.3)	123 (19.3)	137 (10.4)	19 (11.5)	4 (2.2)
無回答	30 (1.9)	7 (1.1)	19 (1.4)	5 (3.0)	2 (1.1)
合計	1,614 (100.0)	637 (100.0)	1,321 (100.0)	165 (100.0)	184 (100.0)
→ その後解決されましたか					
はい	895 (68.6)	372 (73.4)	827 (71.0)	92 (65.2)	109 (61.2)
いいえ	389 (29.8)	133 (26.2)	325 (27.9)	45 (31.9)	64 (36.0)
無回答	21 (1.6)	2 (0.4)	13 (1.1)	4 (2.8)	5 (2.8)
合計	1,305 (100.0)	507 (100.0)	1,165 (100.0)	141 (100.0)	178 (100.0)

⑦やめないでいられた理由として、「学校の友人の援助があった」が31.0%と、他の課程にくらべて割合が高かった（表 I - 29）。

⑧実習において「患者から必要な情報を聞き出せなかったことがあった」と答えている割合が78.6%と、他の課程にくらべて高い（表 I - 30）。また「実習記録が思うようにならなかったことがあった」が88.2%（表 I - 31）。「患者から拒否されたことがあった」が60.0%（表 I - 32）。「実習場の指導者から指摘されたことが納得できなかったことがあった」が71.4%

（表 I - 33）であった。

考 察

看護専修学校（3年課程）の教員の基礎学歴は約8割が高校卒業であり、大学卒業者の割合が少ない。また自分の希望で教員になりたくてなったのではなく、「業務命令」で教員になっている割合が、他の課程にくらべて最も高い。

臨床で長く働いた経験があるので、臨床での実習指導に関してはある程度こなしてきているが、肝心の実習は現場の臨床指導者にまかせざるを得

表 I-32 患者から拒否されたこと

	准 看 学 校	高 校 衛 看	3 年 課 程	短 大	大 学
あ っ た	739 (45.8)	259 (40.7)	793 (60.0)	72 (43.6)	85 (46.2)
な かつ た	845 (52.4)	369 (57.9)	510 (38.6)	88 (53.3)	97 (52.7)
無 回 答	30 ( 1.9)	9 ( 1.4)	18 ( 1.4)	5 ( 3.0)	2 ( 1.1)
合 計	1,614 (100.0)	637 (100.0)	1,321 (100.0)	165 (100.0)	184 (100.0)

表 I-33 実習場の指導者から指摘されたことが納得できなかったこと

	准 看 学 校	高 校 衛 看	3 年 課 程	短 大	大 学
あ っ た	930 (57.6)	281 (44.1)	943 (71.4)	98 (59.4)	119 (64.7)
な かつ た	654 (40.5)	348 (54.6)	358 (27.1)	62 (37.6)	63 (34.2)
無 回 答	30 ( 1.9)	8 ( 1.3)	20 ( 1.5)	5 ( 3.0)	2 ( 1.1)
合 計	1,614 (100.0)	637 (100.0)	1,321 (100.0)	165 (100.0)	184 (100.0)

→ その後解決されましたか

は い	375 (40.3)	131 (46.6)	356 (37.8)	44 (44.9)	45 (37.8)
い い え	541 (58.2)	147 (52.3)	576 (61.1)	50 (51.0)	70 (58.8)
無 回 答	14 ( 1.5)	3 ( 1.1)	11 ( 1.2)	4 ( 4.1)	4 ( 3.4)
合 計	930 (100.0)	281 (100.0)	943 (100.0)	98 (100.0)	119 (100.0)

ない状況にあり、自分の持ち味が発揮できない。また、雑多な仕事や人間関係の煩わしさ、教員数の不足などから、自分の担当以外の教科も行わなければならないという困難さもある。上記の調査結果から、看護専修学校（3年課程）の専任教員をとり巻く状況や負担は20年来改善されておらず、教員としての自律性がもてない状況にあるといえよう。教員という仕事、学校への不満、やりがいの喪失などは、こうした背景も影響していると思われる。

専任教員を、臨床の看護婦からローテーションで採用することは、専任教員を新たに採用する手間が省ける。また、病院の事情をある程度知っていることや、その人柄についてもある程度知っているため、学校設置者側にとってはメリットがある。しかし学校教育という視点からみれば、このような採用方法で教員になっても、教員としての意欲を維持しつづけることは困難である。

教員という名称で勤務していても、同じ学校の教員のなかに自分が学生時代に教わった教員がいたりする場合、教員同士というヨコの関係ではなく、タテの関係が残っている。そのため、問題であると思われる点があっても、目をつぶらざるを得ない状況にある。あるいは、他からみて問題であると思われるも、それを問題として認知することができない。

これらのことから、教員自身の自律性が育まれることは困難であり、教育者としてのアイデンティティは形成されにくい。そのため、自らなにかを行うというのではなく、やらなければならないという業務消化意識が先行する。

教員がおかれている状況を見回したとき、自発的な動きの足かせとなる要因が数多くある。その結果、どうやっても現状は変わらないと判断し、

就任当初にもっていた情熱も冷めてしまい、教員の意識は、いつしか旧態依然の学校の管理システムに染まっていく。看護学生が「信頼できる教員と出会えた」と答えている割合が3%と、他の課程とくらべて最も少ないのは、この実態を象徴的に表しているのではないかとと思われる。

### まとめにかえて —— 今後の課題

病院と学校が同じ設置主体の場合（特に病院附属看護専修学校）は、設置主体病院の意向が働く。卒業生には、当該病院での即戦力性が期待される。そのために学校側では、即戦力となる素質をもつ学生を集めるために、入学希望者に年齢や性別などの受験制限を設けることによって均質性を維持してきた。そして入学後は、授業料免除、寮の提供、奨学金の貸与などの条件をつけて、学校卒業後の何年間は就業する約束を取り交わす。こうして学校側は、同じようなケアが提供できる看護婦を毎年一定数、附属の設置主体病院に供給してきたという一側面もある。

実習場のほとんどは、同じ設置主体の病院で行われる。臨床実習指導は、病棟の臨床指導者にまかされている。これは本来ならば、専任教員の仕事であると思われるが、教員数が学生数に比べて圧倒的に少ないため、不可能である。

学生自身はその設置主体の病院に勤務することによって、卒業者であるがゆえのメリット・デメリットがある。メリットとしては、借り受けた奨学金や授業料が免除されるという経済的側面がある。そして、他の学校の出身ではなく身内意識が働くため、院内での人間関係が円滑になるという側面である。デメリットとしては、他の病院の看護方法やシステムを知らない、いわば「井の中の蛙」のように、視野が狭くなるという点である。

ともあれ20年前とくらべて現在では、同一設置主体の病院への就職が減少してきている。そのため、せっかく病院の医療収益を学校運営費に回しても、実習依頼施設に卒業生をとられてしまうことなどを考えると、病院側にとってもメリットが少なくなっている。

このような状況下において、今後も引きつづき企業内教育的な看護婦養成をつづけていくことについて、学校運営に携わる方々は、現状を改める方向で検討する必要があると思われる。

最後に看護専修学校（3年課程）が学校として

独立するために、次の2点の課題をあげたい。

①看護専修学校の教育は、まず最初のステップとして短期大学へ移行することが必要である。なお、施設面積などの条件から短大に移行できない施設の場合、公的予算を運用して専任教員、臨床指導者を短大と同レベルに拡充していくことが必要である。

②学校の敷地面積などの関係上すぐに短大に移行できない学校の教育条件を改善していくために、看護婦学校養成所指定規則を見直し、教員1人あたり受け持ち学生数を短大並にする。

#### 〈引用文献〉

1. 岩内亮一、陣内靖彦：看護学校の組織と運営（1）——445校の実態調査から 看護教育，16（5），1975.
2. 日本看護協会：3年課程看護学校養成所及び専任教員実態調査（中間報告），日本看護協会，1970.
3. 北原龍二：日本看護協会実態調査（予備調査）報告，看護，25（12），日本看護協会出版会，1973.
4. 日本看護協会調査研究室：看護学生の進路選択に関する調査，日本看護協会調査研究報告 No 37，日本看護協会，1992.
5. 日本看護協会調査研究室：看護教育調査，日本看護協会調査研究報告 No 38，日本看護協会，1993.
6. 厚生省健康政策局看護課：看護関係統計資料集，日本看護協会出版会.

#### 〈参考文献〉

1. 日本看護協会看護教育問題研究班：看護教育の現状と問題点（1）（2）——日本看護協会看護教育問題研究班中間報告，看護，25（10），1973.